

氷室道—船山峠—氷室

[氷室道は、鷹ヶ峰の少し北にある尺八池の横を通っている。](#)氷室には自動車だと京見峠を通って行くが、散歩だと氷室道が最短コースである。尺八池は私の実家のすぐ近くにある。氷室道をしばらく北に行くと、大宮秋葉山という小さな神社に突き当たるが、その右側の細くて急な山道を登っていくと船山峠にたどり着く。[船山峠は五山送り火で有名な船山の近くにある。](#)そこからの氷室道は平坦である。そこからの氷室道を私は勝手に「船山峠氷室道」と称しているのだが、これほど快適な山道を私知らない。北山杉の森を右左に見ながら道はほとんど平らに曲がりくねりながら延々と続いている。ハイキングにはもってこいの快適な山道だ。

では、氷室の説明をしよう。

氷室（ひむろ）は、京都市北区西賀茂氷室町にある。

<https://www.google.co.jp/maps/place/%E3%80%928855+%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BA%9C%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%B8%82%E5%8C%97%E5%8C%BA%E8%A5%BF%E8%B3%80%E8%8C%82%E6%B0%B7%E5%AE%A4%E7%94%BA/@35.0716649,135.7076416,14z/data=!4m5!3m4!1s0x6001a8e674e14a43:0x8d3db00f90bcd25a!8m2!3d35.0850838!4d135.7246741?dcr=0>

地名の起こりは、当地より禁中へ氷を調達するための氷室が設けられたことによる。なお、この氷室跡は、氷室神社境内を含めて1994年（平成6年）に京都市指定史跡として登録された。

藤原京の時期には大和国の都介氷室（つげひむろ）が作られ、禁裏へ氷が運ばれていたという。平城京への遷都後もなお、都介氷室から運ばれ続けた。しかし、平安京からはあまりにも遠く離れている。したがって、平安京への遷都に際して、平安京近隣に氷室を新設し、そこから氷を運ばせたという。

禁裏の生活に不可欠な氷を作り出す氷室は、主水司により管理された。特に平安時代末期に清原頼業が主水正に任じられてからは、清原氏はその地位と所領を代々世襲し、保護に努めてきた。

三か所の窪地、その周辺に製氷に利用された五か所の水池、そしてそれらの守護を目的に設置された氷室神社が残存している。『日本書紀』仁徳62年条にみえる記載や、これまで

の発掘調査などから、直径5-8m、深さ2-3mのやや楕円形の窪地の底に杉の木の枝葉を敷き詰め、板を張って氷を載せ、木の枝葉や葦、萱で覆って貯蔵したものとされる。

旧暦6月15日に当地から禁中まで、行列を仕立てて献上されるのが習わしで、平安時代から東京奠都に至るまで続いていたと伝えられる。氷を葦、萱で覆って馬で運んだ、あるいは天秤棒に杉の葉で包んだ氷を担いで運んだという。

では、私が散歩で氷室まで足を伸ばしたその時の様子を紹介させていただく。

氷室の風景： www.kuniomi.gr.jp/togen/iwai/himuro.html

氷室神社： <http://www.kyotofukoh.jp/report193.html>

それでは、氷室から船山峠までのまことに快適な山道を紹介しておこう。

<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/iwai/miti.html>